

平成28年度内閣府 地震・津波防災訓練 【秋田県にかほ市】

実施報告書
(概要版)



秋田県にかほ市について

にかほ市は平成17年10月1日、仁賀保町、金浦町、象潟町の三町が合併し誕生した人口25,818人（H28.3月末）、面積240.67平方kmのまちです。烏海山の山すそが海岸近くまで延び、海岸部の平野部に人口が集中しています。

気候は、秋田県内では春の訪れが最も早い温暖な地域として知られ、降雪量も最も少ない地域です。

豊かな自然と歴史・文化遺産に支えられた「観光」、日本海の恵みを生かした「漁業」、電子部品を主体とするハイテク産業が集積する「工業」と、豊富な資源に恵まれたにかほ市は、伝統ある文化と最新の技術がバランスよく共存するまちです。



地図出典：国土地理院

訓練概要

■訓練想定：11月4日午前10時35分に、日本海中部、秋田県沖を震源とするM8.7の海溝型連動地震が発生し、にかほ市では震度6強の揺れを観測した。この地震により、仙台管区気象台は10時35分、秋田県沿岸部全域に大津波警報を発表。津波の高さは、高い所で10mを超えると予想される。

■実施日時：平成28年11月4日（金）10：35～12：05

シェイクアウト訓練	10：35～10：40
津波避難訓練	10：40～11：10
情報伝達訓練	10：35～11：10
避難行動要支援者名簿を活用した避難訓練	10：40～11：10
避難所ガイドアプリを活用した避難訓練	10：40～11：10
出前講座	11：10～11：40
キャラクターによる啓発活動	11：45～11：50
閉会式	11：50～11：56
物資配給訓練	11：15～12：05

■主催：内閣府、にかほ市

■参加者数：約1,450名

■参加機関：町内会、自主防災組織、小・中学校、気象台、仁賀保高等学校、ヤマト運輸

当日の訓練内容

10:35～ シェイクアウト訓練

自らの命は自ら守るという「自助」の取組みに重点を置き、訓練参加者全員が、緊急地震速報を合図に、それぞれの場所で一齐に安全確保「まず低く、頭を守り、動かない」を行った。

▼象潟小学校



▼妙見町



10:40～ 津波避難訓練

防災行政無線による避難指示の一齐放送を合図に、妙見町・荒古屋地区の住民及び各小・中学校の児童・生徒は、にかほ市津波避難地図のとおり、津波避難場所に避難した。避難にあたっては、要支援者名簿を活用した避難訓練も行われた。

▼校舎屋上



▼避難行動要支援者の避難



11:10～11:40 出前講座

仁賀保高校生自主防災会は、小学1～3年生を対象とし、防災クイズ等を行い、また、秋田地方気象台は、一般市民及び小学4～6年生を対象とし、津波避難啓発用のアニメ等を活用して小学生にも分かり易く説明し防災意識の高揚を図った。

▼仁賀保高校生による講座



▼気象台による講座



11:45～12:05 キャラクターによる啓発活動・物資配給訓練

にかほ市公認キャラクター「にかほっぺん」と仁賀保高校生が避難ポーズを共同で教え、啓発活動を行った。

最後に、市の物資集積拠点から協定業者により運搬されてきた防災啓発用品が訓練参加者に配給された。

▼高校生とキャラクターによる啓発活動



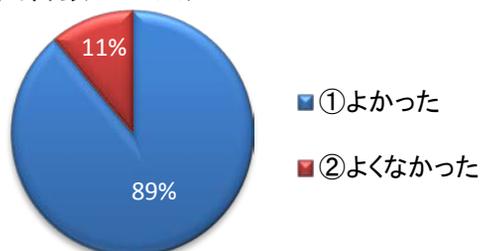
▼物資配給訓練



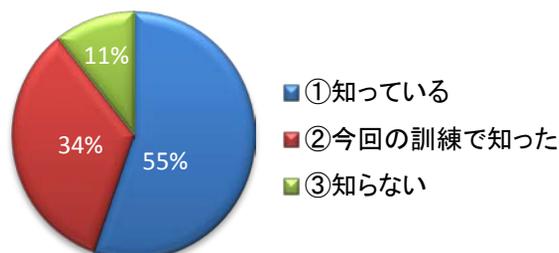
アンケート結果

住民の方々の防災意識や津波避難対策への取組み状況等を把握するため、アンケート調査を実施した。（回答数：47人）

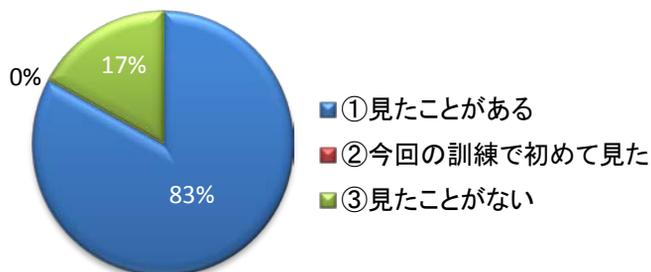
問 訓練に参加して、どう思いましたか？
（回答数：45人）



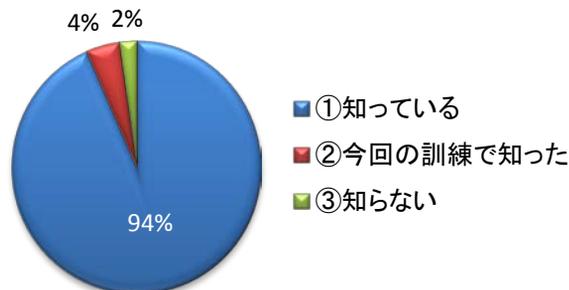
問 11月5日が「津波防災の日」であることを知っていますか？（回答数：47人）



問 津波ハザードマップを見たことがありますか？（回答数：47人）



問 ご自宅からの津波避難経路を知っていますか？（回答数：46人）



訓練の評価

訓練当日は、吹きつけるような雨にも拘らず、妙見町・荒古屋地区住民約50名、各小・中学校の児童・生徒等約1,400名の合計約1,450名が、熱心かつ我慢強い態度で訓練に取り組んだ。

訓練実施後、訓練講評、職員等の所見、参加者のアンケート結果等を分析し、今後の防災対策や防災訓練の参考となるよう整理した。

11月5日が「津波防災の日」であることを「今回の訓練で知った」は、市民34%に対し、小学校4～6年生は93%であったことから小学生の訓練参加の成果は大きかったといえる。一方で、次のような課題があることが認識された。

- 要支援者への避難支援行動は適切に行われていたものの、妙見町・荒古屋地区の訓練参加者全員が60歳以上という老人世帯が多い状況を考慮すると、住民相互の支援態勢を強化する必要がある。
- 二人体制で要支援者の避難を支援していたが、階段や段差がある場合には、三人体制での支援が必要である。